



防災士・防火 防災管理者
稲垣 康弘

災害時に「大切なペットを守れる」のは飼い主だけです。

ペットは大切な家族の一員です！

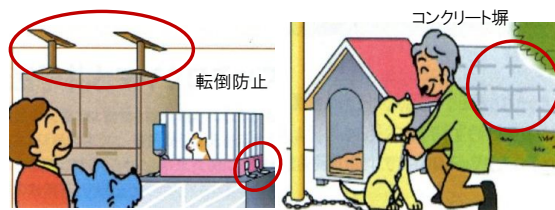
もし災害が発生したとき、大切なペットと一緒にいられるためには「災害時の飼い主の心構え」と「ペットの防災対策」がとても大切です。

今回のAdvance 防災かわらばんは「**ペット防災**」についてお知らせします。



ペットを守るための「住まいの防災対策」が重要です。

ペットが安全でいられるように普段からペットに対する住まいの防災対策が大変重要になります。ペットが室内にいる場合、普段ペットがいる場所は、地震のときに家具やケージが転倒や落下しないよう固定をしましょう。また屋外にペットがいる場合は、ブロック塀やガラス窓、破損や倒壊するおそれのある建物等の横は避けましょう。



ペットを守るための「家族の話し合い」が大切です。

災害時に、ペットを連れて避難ができるか、また誰がどのようにペットを守るのかなどを家族で話し合っておくことが大切です。その他に、ご近所の飼い主仲間と災害時は助け合う話し合いをしたり、緊急時に預かってくれる場所を確保しておくことも大切です。



災害時はペットと「同行避難」が原則です。

災害が起きたとき、ペットが飼い主と離れ離れになってしまう事例が多数発生します。そして、その間にペットが負傷したり衰弱・死亡するおそれがあります。大切なペットの命を守り、一緒に生き延びるためには、まずは『**同行避難**』をすることが原則です。



ペットの「備蓄品は7日分」が必要です。

家族の備蓄品と一緒にペット用の備蓄品も準備をしておく必要があります。

「**フード**」「**水**」「**おやつ**」「**薬**」などでできれば「**7日以上**」用意しておき、避難が必要な場合一緒に持ち出せるようにしておくことが大切です。

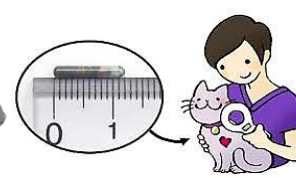


ペットと離れ離れになったときの「迷子札」と「マイクロチップ」

災害時に、ペットと離れ離れになってしまったとき、誰かが保護してくれていたり、保健所で預かられていることがあります。その時すぐに飼い主がわかるように、外から見て誰でもすぐにわかる迷子札や、半永久的に識別可能なマイクロチップを入れるといった対策をしておきましょう。

※ 令和4年6月1日からブリーダーやペットショップ等で販売される犬や猫について、マイクロチップの装着が義務化されています。

※ 犬猫等販売業者以外の犬又は猫の飼い主のかたについては、飼っている犬猫のマイクロチップ装着は努力義務となります。



ペットを探すために、携帯に写真データを保存しておく。

ペットとはぐれてしまった際は、自治体の「動物愛護センター」や「保健所」「警察」など公的機関に届け出ましょう。

SNSなどで情報を求める際は、「いなくなりました！ 見かけたらお知らせください。」と載せるだけでなく、「ペットの写真や特徴」などを載せたり、「いなくなった場所」などを記せば、飼い主を特定する際の貴重な資料になります。

そのために、「ペットの写真データを携帯電話に保存」しておきましょう。

